

ハス・ヒメガマ 船上調査

2020年1月に船上調査をした後、コロナ禍のため調査を自粛していました。春になりハス群落の発芽が見られないという情報に驚き、6月30日に調査を再開したときには、2019年9月の調査時に開放面が増加し、衰退していることを確認していましたが、これだけあっけなく消失するものかと我が目を疑いました。同時に、ヒメガマも衰退していることが判明し驚愕しました。今、手賀沼で何が起きているのか。

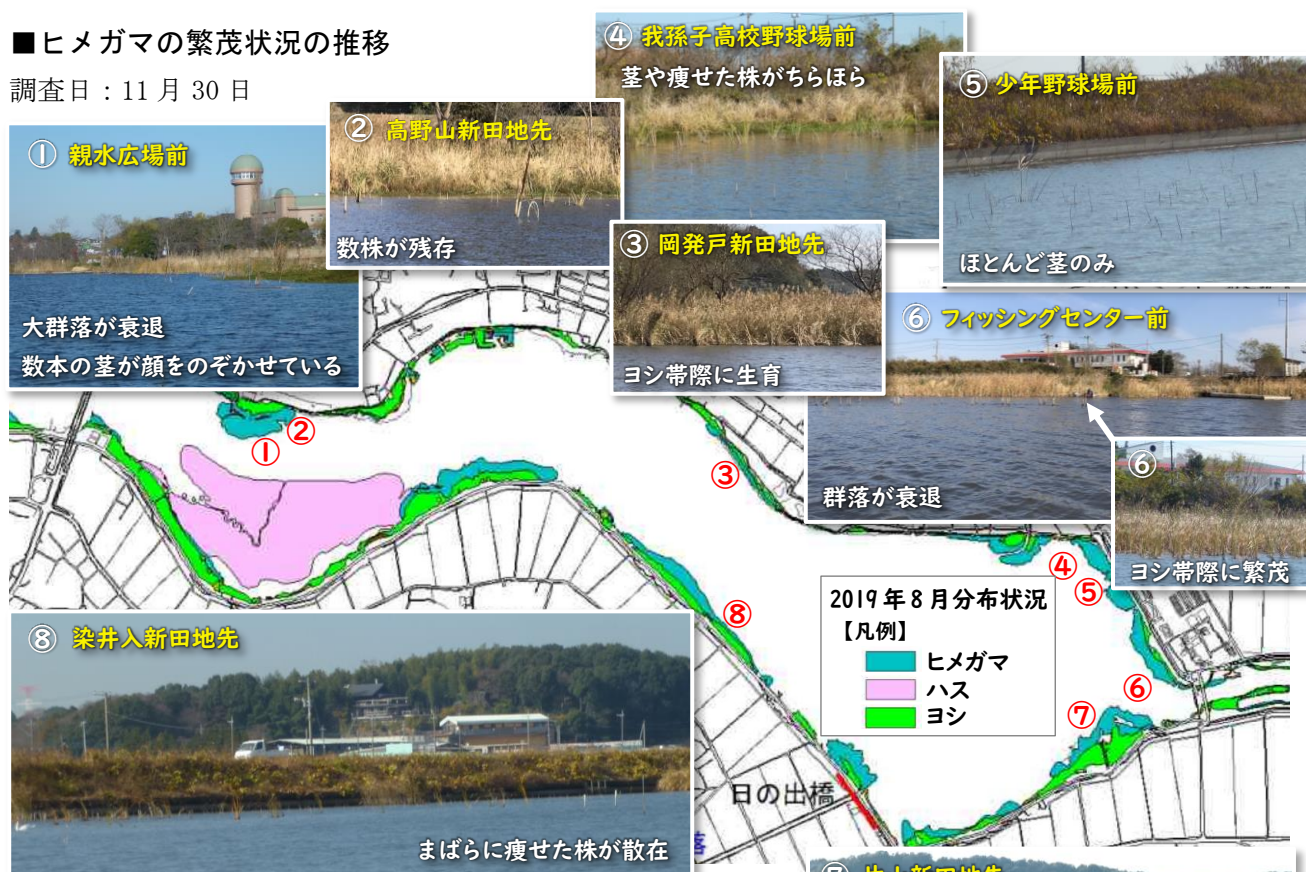
状況を把握するために5回に渡り、船上より分布調査を実施しました。

■調査日 ※使用船舶：みずすまし号 古川船長他（NPO法人アルパトロスヨットクラブ）

- ①日時：2020年6月30日 10:15～12:40 【主に上沼】※ハーベスターによる試験駆除視察の同日に実施
参加者：滋賀県琵琶湖環境部 中井克樹氏、千葉県立中央博物館 林紀男氏、千葉県水質保全課 小田上孝行氏
いであ株式会社（試験駆除受託業者） 高橋菜氏、美手連6名
- ②日時：2020年8月5日 9:00～11:20 【主に上沼】※コンバーによる試験駆除視察の同日に実施
参加者：千葉県立中央博物館 林紀男氏、千葉県水質保全課 小田上副主幹、
ヤンマー関連会社（ハーベスター駆除の担当者） 山本氏・石橋氏、美手連6名
- ③日時：2020年10月20日 13:30～15:00 【主に上沼】※試験駆除後の状況調査の同日に実施
参加者：滋賀県琵琶湖環境部 中井克樹氏、美手連6名
- ④日時：2020年11月30日 9:35～11:30 【下沼】※手水協によるハス現地調査見学の同日に実施
参加者：千葉県立中央博物館 林紀男氏、美手連6名
- ⑤日時：2020年12月3日 9:40～11:35 【上沼】
参加者：滋賀県琵琶湖環境部 中井克樹氏、千葉県立中央博物館 林紀男氏、美手連5名

■ヒメガマの繁茂状況の推移

調査日：11月30日



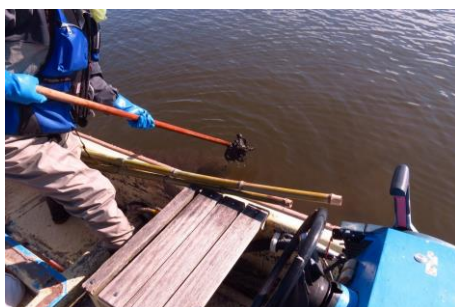
※環境基図概要図（水生植物分布状況）：いであ株式会社 2019年8月調査・作図

ヒメガマの衰退は、多数の大規模群落を形成している下沼で顕著だった。同様にマコモ群落もほぼ衰退している。これらの抽水植物に発生している現象は同一の原因によるものなのか。

■ハスの繁茂状況の推移



同日実施の手賀沼水環境保全協議会による「令和2年度手賀沼におけるハスの生育状況悪化に係る原因等調査」を見学。美手連も船上からレイキを使って底泥を掬い取るとハスの枯死体ばかりで地下茎は確認できなかった。



近年、行政も市民もハス群落の拡大をどのように抑制するべきか、苦慮してきた。ところが、2019年ころから衰退し始め、2020年春にはほとんどが消失してしまった。原因究明が急がれる。市民に愛され観光資源となっていたハスだが、ハスを完全駆除し再生阻止するか、あるいはある程度の再生を認めるか。ハスのほとんどが消失している今、今後のハスの生育について考える良い機会となった。